

会 議 録

会議の名称	平成28年度行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時	平成28年7月29日（金） 開会：午前10時00分 閉会：午前11時55分
開催場所	行田市産業文化会館 第2会議室
出席者氏名	川島将史座長、尾澤照男委員、山崎孝子委員、小川雅以委員、山本栄治委員、小池利昌委員、山岸泰輔委員、宮本伸子委員、伊東政信委員、新井弘美委員、加藤裕一委員、浜 雅俊委員、島田 徹委員
欠席者氏名	羽鳥英樹委員、野本祐子委員、島田ユミ子委員、戸塚昌利委員、吉田岳雄委員、小菅克祥委員
事務局	企画政策課：岩田課長、川上主幹、横倉主任、沼尻主事 商工観光課：磯貝課長、西村主幹 農政課：吉田課長、多田主幹 子ども未来課：満井課長 保健センター：長島健康づくり推進幹 学校教育課：柿沼次長 男女共同参画推進センター：大澤専門員
会議内容	(1) 総合戦略の進捗状況について (2) 地方創生に係る交付金について
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱 ・ 行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要版 ・ 資料1 行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進体制 ・ 資料2 行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況 ・ 資料3 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地域消費喚起・生活支援型）実績報告 ・ 資料4 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）に係る事業実施結果 ・ 資料5 地方創生加速化交付金に係る事業実施計画 ・ [参考] 行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理シート
その他 必要事項	傍聴者 8名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ（川島座長）</p> <p>3 議事</p>
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・早速議事に移らせていただく。議事については、本会議の設置要綱の規定に基づき、川島副市長に座長としての進行をお願いする。
川島座長	<ul style="list-style-type: none"> ・議事に入る前に、会議の公開に関する取扱いについてご説明する。本日の行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議の議事の中では、個人情報を取扱う予定がないことから、会議は公開とさせていただきます。会議録については、市政情報コーナー及び市のホームページにおいて後日公開する。 ・本日は総合戦略に位置付けた施策の進捗状況や指標の実績値について、また、地方創生に関する国の交付金の活用状況等について報告をさせていただきます。まず、議事（1）について、事務局より説明する。
事務局	<p>（1）行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について（行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略概要版、資料1～2により説明）</p>
川島座長	<ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略は5年後目標値を設定しているが、初年度が終わった段階であるので、数値の検証というよりは、事業や取組みに対するご意見や、今後の施策等について皆さんのご意見をいただければと思うがいかがか。
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や少子高齢化に対応するのは大変なことだとは思いますが、行田市の人口ビジョンでは、2060年に人口が約4万2千人になってしまうところを、様々な施策を実施して5万7千人に減少を抑えたいというものと認識している。人口減少には様々な要素があると思うが、例えば今後5年間でどう取り組むか、どこまで取り組むのか、そういった考えがあれば聞かせていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・2060年に人口約5万7千人の確保を目的としているが、そのために最初の5年間、平成27年度から平成31年度までに取り組む内容を定めたものが今回の総合戦略であるので、この計画に位置付けた施策を推進していく。また、5年間でどこまで進める

<p>小川委員</p>	<p>かという目安については、重要業績評価指標（K P I）の目標値の部分であり、ここを目標として各施策を進めていきたい。なお、具体的な人口推移の実績について申し上げますと、平成28年4月1日現在の人口は8万3千249人となっており、人口ビジョンに掲載した市の独自推計に、概ね沿った人口推移となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前、消滅可能性都市の話が出た際に、行田市も若い女性が減少していくということでその中に含まれてしまったが、このように地方から流出した若者は、その多くが東京に行ってしまう。また、未婚化、晩婚化の話もあったが、昔と比べると結婚に対する考え方自体が変わってきており、人の意識を変えることは難しいものである。ましてや、駅前に保育所を作ったところで子どもが増えるとも思えない。結婚や出産については人口減少問題のベースとなる部分でもあるので、皆さんの考え方もお聞かせ願いたい。
<p>川島座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これについては、行田に限らず、日本全体の問題でもあるわけだが、何かご意見はあるか。
<p>小池委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行田市に住んだら分かるということではなく、子育てや教育、医療などに関する行田市の良さ、他の市に負けないようなものをマスコミに取り上げさせて外にアピールしなければ、人口は増えないと思う。現在の定住促進奨励金は、元から行田市に住もうとしている人に交付してしまっている。行田市は素晴らしいということを市民一人ひとりが誇りとして、そしてその魅力ある行田市を外に売り込んでいかなければならない。北谷通りの舗装整備の話があったが、沿道は確かに空き家が多いが貸すという人もおらず、中途半端ではないか。それならば、子育て支援などにお金をかけた方がいいと私は思う。
<p>宮本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私も発信力が足りない、もっと欲しいということは感じている。今はI Tの時代であり、K P IにもS N Sの指標等があったが、このような数値は少しの工夫ですぐに2倍、3倍になる。逆に、何もしないでいると、あっという間に減ってしまうものである。子育ての面でいえば、行田市は現在待機児童がほぼ0だと思うが、都内では多くの待機児童がいるわけであり、そういったところは行田市の大きな魅力になると思う。例えば、古代蓮の開花期には

	<p>テレビでも多く取り上げられるが、蓮の花の上に「待機児童なし」という表示を付けたりといった工夫が必要ではないか。もう1点、平成27年度の実績値が、基準値から上がっているものや維持のものはいいが、想定を下回ったものについては、きちんと分析し、それを元に各課から事業を提案させ、その中から年度ごとに目玉事業を決めて取り組んでいく必要があると考える。</p>
<p>尾澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略の指標値は平成31年度を目標としているが、進行管理にあたっては、年度ごとの目標設定があってもいいと考える。
<p>山岸委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化は全国的に進んでいる問題ではあるが、行田にとって武器にもなるのではないか。年少人口が減って老年人口が増えているということは、言い方を変えれば、昔と比較して一人の子どもを多くの目で見ることができるということになる。高齢者が元気なうちに、育児や保育についての情報やスキルを身につけていただいて、それを活用していくことが有効ではないか。私の知っている子育てサークルには、行田市外から嫁いできたお母さんが数多くおり、行田の情報を何も知らない方も多し。行田に住むと、多くのおじいちゃんおばあちゃんが子どもを見守ってくれるということになれば、大きな武器になると思う。結婚や出会いに関することも、おせっかいをしてくれる年配の方がいれば進展するかもしれないし、若い世代が気軽に高齢者や老人クラブに預けるなど、今の人口構造を武器にして問題を解決することができればいいのではと考える。また、Uターンの話について、一度地元を離れたとしても、25～30歳くらいに戻ってくる方が多いと実感しているが、戻ってきたときに職をどうするかといった問題も多く、それに対して何か補助ができればいいと思う。このような色々な施策が有機的に結びついていくことが、将来に繋がっていくのではないか。
<p>尾澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光について、行田市は以前に比べればマスコミに取り上げられる機会は多くなってきているし、実際に観光客は増えてきていると実感しているが、人数が増えるわけでは本来の意義をなさないわけで、いかにお金を落としてもらうかということを考える必要があるが、その点は非常に弱く感じており、検討する必要がある。

伊東委員	<p>今回、バスターミナルに観光案内所が出来たが、法律的な制約はあるのだろうが、単なる案内所ではなく、もっと色々な活用を考えて、入りやすいものにしていかなければならないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行田市の人口減少をある程度のところで食い止めるためには、行田が住みやすい、子育てしやすいという部分に注力して上手く発信していくことが必要ではないか。総合戦略にはたくさんの施策が記載されているが、これらがどのように結びついていくかが分からない。それであれば、転入してきた人に働いてもらえる場所を作ったり、3人目とは言わず1人目から様々な費用を補助してもいいし、取捨選択して重点的にやっていくということが必要ではないか。
新井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口を増やすには企業誘致が一番だと思うが、新たな工業団地の整備が進まない中で、雇用創出数の目標に向けて本腰を入れていく必要がある、銀行としても協力していきたい。地元企業の育成については実績が1桁となっており、今後も起業家の育成に力を入れていただければと思う。観光周遊アプリは非常に有用であると思うが、レンタサイクルについては、忍城址公園内の貸し出し状況を見ると、いつも自転車が多く置いてあるので、あまり利用されていないのかと思う。置く場所などに工夫が必要ではないか。不妊治療については、休暇も必要となるし、金銭的な負担が非常に多額になる傾向にある。既に支援はしていると思うが、更に補助があれば、子どもを生む人も増えると思う。婚活イベントについては、実績値が130人となっていたが、この中には同じ人が複数回出ていることが想定される。更に婚活イベントを増やして、またカップルが成立したときはその数も公表するなどして、もっと出会いの場を作っていく必要があると思う。子育ての観点としては、総合公園のプールも無くなって、子どもの遊び場が減っていると感じている。例えば、市内でバーベキューができる場所があれば、子どもたちも楽しめるのではないか。
加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば、昨年、起業進出の相談はあったが、適当な土地がないなどの理由で進出に至らなかったケースはあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度は圏央道の開通もあり、主に物流関係の企業から問い合わせ

<p>小川委員</p>	<p>せがあったが、面積などで折り合いが付かなかったケースはあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数年前に調べたとき、市内の工業関係の就労者数が昔と比較して5,000人以上減少していた。県内の工業団地整備については、圏央道の整備に合わせて川島、幸手、白岡などインターチェンジ周辺で盛んに開発がされたが、現在は落ち着いているように思う。早く行動を起こして、進めていただきたいと思う。企業に勤める社員が一人いれば、その家族分も行田市の人口が増えることになる。企業立地を進めていけば、転出者分をカバーできるくらい転入者も増えるのではないかと思うが、どの程度進んでいるのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな工業団地の整備については、行田創生を進める上で非常に重要であると認識している。これについては、都市計画マスタープランや産業振興ビジョンにおいても、国道17号熊谷バイパス沿い、みなみ産業団地近くの堤根地区を整備検討ゾーンとして位置付けており、県の都市整備部局や農林部局に対して、企画政策課はもとより、商工観光課や都市計画課、農政課など、様々な部署が一丸となって県に相談している状況である。また、国の関係機関にも呼びかけを行っている。今現在、具体的な進捗について申し上げる段階にはないが、そういった協議、調整を進めているところであり、今後も関係団体の意見をいただきながら、取り組みを進めていきたいと考えているので、ご協力いただきたい。
<p>小川委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・過去、日本の経済が右肩上がりだった時代に、もっと工業団地を整備すべきだったと思うし、その後も工業団地から大手企業が流出してしまうなど、現在の状況は非常に厳しいと思う。次の工業団地整備についても、もう少し力を入れて、具体的にスケジュールを組んで進める必要がある。
<p>川島座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんのご意見をいただき感謝する。限られた予算の中で、定住促進や子育て支援、観光振興など様々な施策に取り組んでいるわけで、皆さんの意見を踏まえると、こういった様々な施策を更にアピール、発信が重要であるというご意見が多くあったと思う。本日いただいた意見については、市内部でも検討し、今後の施策に活かしていく必要があると感じている。

川島座長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、議事の（２）地方創生に係る交付金の活用について、事務局より説明する。
事務局	<p>（２）地方創生に係る交付金の活用状況について（資料３～５により説明）</p>
川島座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまの説明について、何かご意見や質問があるか。 ・なければ、本日の議事は全て終了となる。以上をもって、座長の職を解かせていただく。
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・以上をもって、行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会とする。 <p style="text-align: center;">＜ 閉 会 ＞</p>